

## W 登山 & Run

### 場 所 > 笠形山 & 千ヶ峰

- ・どちらも 1/25000 と 1/50000 の地図をスキャナーで取り込んで完璧に仕上げる。
- ・ザックにはゴアレイン上下、緊急用具、水、食料、カメラ etc などすべてで 4kg。

メンバー > 大塚賢一 44 才、福迫順一 37 才

天 候 > 曇 / 雪 / 晴

いつもならこのシーズンは陽光を浴びて氷ノ山での素晴らしい山スキーを楽しんでいるのであるが、戻り寒波のために北部の天気は強風波浪注意報がでている。真っ白い氷ノ山でガスられでもしたらそれこそホワイトアウトに陥り楽しむどころではなくなる。私の遊びは自然界が力を貸してくれてこそ成り立つのできらわれでもしたら大変である。

南部地方は雲が多いもののおおむね晴れとの予報なので、今年計画の「X-Training」の一つのプランを実行に移すことにした・・・「W 登山 & Run」である。当初は単独の予定であったが、今やよきパートナーになった福迫氏に声をかけたところ、OK の返事が返ってきたので 2 人で試みることにした。

「色づく葉

今か今かと

春を待つ」

山スキーシーズンに突入と思えば、戻り寒波のために冬に逆戻り

2000.03.26 (日)

### 1. 「笠形山 939m」

笠形神社に車をデポ～八千代町大屋までラン(10km)～山頂～笠形神社

### 2. 「千ヶ峰 1005m」

三谷側登山口に車をデポ～山頂～市原側に下山～三谷側登山口までラン(10km)

1～2 までは車移動



### 笠形山

笠形神社を 7 時にスタートで大屋までランニングなのだが、どこでどう間違ったか地図上ではすごく大回りをしてしまいかかなりの時間ロスをするはめになる。高山の山地図と違って村の中は新しい道がついていたりしてまだ国土地理院の地図には掲載されていない(平成 4 年度版)のである。



雪化粧を施した登山道

約 10km を一時間半以上かかってなんとか登山口を見つけ登り始める、龍が滝や蛇滝といった素晴らしい滝が出迎えてくれて疲れをいやしてくれる。かなりの急斜面になり山頂近くでは雪の登山道に変わっていく。山頂方面がガスっていたのは雪雲で気温 0 度で雪が舞っていた、景色を写真に収めながらもかなりのハイピッチで登ったので 50 分ほどであった。



龍が滝（笠形）

下山は笠形神社方面へと下って行くがこの天候にもかかわらず数パーティーに出会った。

距離 > 登山5km、ラン10km 時間 > 約3時間

### 車移動

笠形神社から千ヶ峰に

車移動であるが、もう一度まちがった所を車で確認のつもりで移動したがまたしても間違っ  
てしまい???, オフロードの林道を走ること1時

間強、なんと高坂峠のバイパスに突き当たってしまった。「やっぱりこの地図まちがえてるわ!」と二人同意見である。しかしこの林道はMTBには持ってこいの道であった、何事もよい方向に考えて「今度はこの道はMTBやなあ」と、また新たなプランが思いつく。

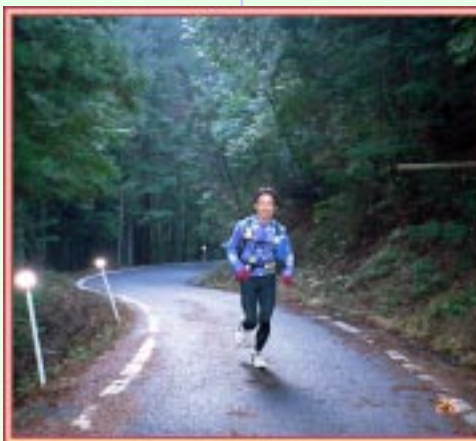
### 千ヶ峰

三谷側の千ヶ峰登山口を11時45分にスタートする、この登山道も水が豊富で雄滝・雌滝と迫力のある滝を横目にかかなり急な直登登山道をハイピッチで登頂すること40分、このころになると山頂も晴れ間が見えだした。しかし、雪解けの登山道なのでドロドロでおニューの靴も泥まみれである。

山頂には20人ほどの登山者が「南無阿弥陀仏」



笠形山頂 939m



船坂峠を駆けめぐる



三谷側登山口 GOOL

の石碑の周りを囲んでいた。笠形山より少し北東方面に位置し高度も70mほど高いせいか  
昨夜降った新雪が10cmは積もっていた。

市原方面への下山ルートはスキーでも出来そうなくらいなのでかなり慎重に下りる。駐車場まで下りると、様子が変わっており市原の村までの下りの砂利の林道がきれいにアスファルト舗装されていた。これには私の膝が悲鳴をあげてしまった。

距離 > 登山5km、ラン10km 時間 > 約3時間

### 後記

・下りで滑ると思い軽アイゼンを装着したが、雪の量が少なく落ち葉が幾枚も刺さり「雪団子」ならず「落ち葉団子」になってさすがの硬いアイゼンも柔らかい落ち葉に完敗であった。

・SALOMONのX-Trekking シューズで挑んだが、登山は申し分なしたがランでは底が硬く足に馴染めずに肉刺を作ってしまった。

・44才最後の思い出深い日であった。

・次回は「ダブル登山&ラン」から「トリプル登山&ラン」に挑戦してみようと思っている。もう一つの山は「雪彦山」である。



雄滝（千ヶ峰）